

素敵なお人と空間の出会いに感謝！

●太虚窯グループ作陶展に伺って！

今日は午前中に、野田市のギャラリー平左衛門で開催(5日～8日)されている「太虚窯グループ作陶展」(松本伸一様と 12 人の仲間たちの作陶展)にお伺いし、楽しい出会いのひとつを頂戴してまいりました。



【ご案内のはがき】



【松本様と作品の数々】



【ギャラリーの落ち着いた空間】



【個性豊かな作品が揃って】

実は松本様が春日部地区浦高会会員で12年先輩、以前から作陶のお話は伺っていたのですが、こうした作陶展には初めて伺いました。2009年9月の春日部地区浦高会総会で松本様から「陶芸を見つけた道」というタイトルでお話を伺い、仕事の傍らで青年会議所活動、料理のプロとの出会い、TALKの人たちとの出会いをきっかけとして陶芸を始められたことを伺いました。その時のお話をご紹介します。

◆陶芸につながる3本の糸／青年会議所(時間)／料理のプロの人たち(食器) / TALKの人たち(用の美)

仕事の傍らで野田青年会議所の活動にも参加しました。理事長も務めました。この時には延べにして270日会議所の仕事にかかわったという記憶があります。その時に時間の大切さ、時間を上手く使うことを覚えました。次に40歳で陶芸の道に入りました。

日本陶芸倶楽部です。ここではプロの料理人の方々とも出会い、特に東京吉兆の湯木貞一さんの言葉に驚かされました。店で味を聞かれた湯木さんは「薄口醤油が一滴足りない」とおっしゃられたのです。その感覚が、私の食器作りに繋がっているような気がします。次が「食空間と生活文化ラウンドテーブル」(TALK)で用の美を求める人々との出会いです。こうしたさまざまな出会いの中で、私の陶芸があると思います。

◆「太虚窯」の由来

私の窯の名は「太虚窯」といいます。これは桃山時代に刀や書の目利きであった本阿弥光悦に由来するものです。彼は刀と書のプロで素晴らしい作品を残していても、陶芸に関してはアマチュアを貫き通しました。そんな光悦に因んで私もアマチュアに徹することを掲げるために太虚窯と命名しました。

「太虚」＝おおぞら、虚空、太虚は無形だが無ではなく、万物・気の本体で、宇宙生成の根源(広辞苑)。本阿弥光悦(京都鷹ヶ峯、太虚庵)現在の光悦寺。【2009年9月13日「喫茶去」24号、2012年5月19日「喫茶去」70号より引用】

松本様は40歳から陶芸の道に入られて35年近くが過ぎていらっしゃるのです。毎週日曜日に仲間の皆様とご自宅に設けられた工房で作陶され、登り窯などで作品を焼き上げるそうです。今回の出会いの一つは、いただいてきた志野焼きのお茶碗です。手にすっぽりと納まり優しい絵付けがされています。

もう一つは「ギャラリー平左衛門」のたたずまいですね。案内には「明治27年、山田平左衛門が立川流宮大工、佐藤庄輔に依頼し、2階合掌造りとして建築したものです。東武野田線運河駅より徒歩2分、利根運河土手沿いに位置し、春4月は運河の桜が咲き、見事です。ギャラリー東側は、竹林。南側は梅の古木の花が咲き、ギャラリー2階の北側の窓からは、満開の桜を見ることが出来ます。」とありました。そして何より松本様やお話しいただいた方々との素敵なお会いに感謝！



【手にすっぽりと納まる志野茶碗】



【ギャラリー平左衛門のたたずまい】



覚えました。次に40歳で陶芸の道に入りました。